

8世紀の初め、【 ① 】を中心に律令制度の確立がはかられた。【 ① 】は娘の宮子を文武天皇に嫁がせ、その子の皇太子(後の聖武天皇)にも娘の光明子を嫁がせ天皇家と密接な関係を築いた。

【 ① 】が死去すると、【 ② 】が政権を握った。【 ② 】は722年の百万町歩開墾計画や723年の【 ア 】など土地政策を進めたが、【 ① 】の子の藤原氏四兄弟たちは策謀によって【 ② 】を自殺させ、光明子を皇后に立てることに成功した。だが藤原氏の4兄弟は天然痘の流行によって相次いで死亡した。

藤原氏の4兄弟の死亡後、【 ③ 】が政権を握った。【 ③ 】の政権下では唐から帰国した(A)吉備真備や玄昉が活躍したが、彼らの排除を求めて藤原氏が九州で大規模な反乱を起こした。この乱が起きてから数年の間、聖武天皇は都を転々とした。このような社会不安に対して聖武天皇は鎮護国家の思想により国家の安定を図ろうと、741年恭仁京で国分寺建立の詔を、743年紫香楽宮で大仏造立の詔を出した。同年、土地政策としては【 イ 】が出されている。

【 ③ 】の引退後、政権を握ったのは【 ④ 】である。【 ④ 】は光明皇太后と結んで勢力を伸ばした。(B)【 ③ 】の子は【 ④ 】を倒そうとするが逆に滅ぼされた。【 ④ 】はさらに淳仁天皇を擁立して即位させると恵美押勝の名を賜り権力をふるった。だが後ろ盾であった光明皇太后が死去すると孤立を深めていく。孝謙太上天皇が自分の看病に当たった僧侶【 ⑤ 】を寵愛して淳仁天皇と対立すると、恵美押勝は挙兵するも先制されて滅ぼされた。淳仁天皇は廃されて孝謙太上天皇が重祚して称徳天皇となった。

【 ⑤ 】は太政大臣禪師、さらに法王となり仏教政治を展開した。さらに769年には【 ⑤ 】が神託を利用して皇位を狙う宇佐八幡神託事件が起こったが和気清麻呂らによって阻止された。称徳天皇が死去すると【 ⑤ 】は退けられ、【 ⑥ 】によって光仁天皇が迎えられた。光仁天皇の時代には仏教政治で混乱した律令政治の再建が目指された。

問1. 空欄①～⑥に該当する語句を書きなさい。

問2. 下線部 (A) (B)の反乱の名称を答えなさい。

問3. 空欄ア、イに該当する語句を書きなさい。

1-①	1-⑥
1-②	2-(A)
1-③	2-(B)
1-④	3-ア
1-⑤	3-イ

採点者

得点